



矢島 渚男 選

終戦日わたしにもいた乳兄弟

【評】 空襲で母を亡くしたか、行方不明になった赤んぼが自分と一緒の乳で育てられたことを知った驚きか。当時は珍しいことではなかっただろう。

ベビーカーの児の足拍子盆踊り

【評】 広島に生まれ合わせた元氣な赤んぼ。この子にもこの広島という世界初の地を誇れるようにしてやりたいものだ。
産土は人住まぬ里天の川

【評】 生まれ故郷は人口希薄になり友もなくなつた。私なども身につまされる。何か有効な政策はないのだろうか。

黒傘の列しつと長崎忌

福岡市 無 草

新型の何か分らず原爆忌

神奈川県 中島やさか

洗脳の解けし八月十五日

三王子市 徳永 松雄

捕虫網平城京跡駆けりけり

宝塚市 広田 祝世

言い訳に使えそうこのたならぬ暑さ

東京都 山田真理子

風天忌われにも旅の艶あり

鹿嶋市 津田 正義

屋根よりも高き奄美のヒマワリよ

鹿児島市 鶴屋 洋子

高野ムツオ 選

君の声雲の峰よりきこえしか

【評】 君とは誰か。青春時代の恋人の声とも想像できようが、阿川弘之の『雲の墓標』を念頭にすると、理不尽にも死に赴かざるを得なかった特攻隊員の声に聞こえる。

猛暑ゆえ婆も片手にハンディファン

【評】 ハンディファンを片手にした若い女性に酷暑の街でよく出合う。ミストが出る優れものもある。そのうち「爺も片手」となるか。

簡単服吊るせば母の在る如し

松江市 三方 元

【評】 別名アツパツ。特に昭和初期に大流行した。作者の母の愛用着だったのだろう。明るい柄柄模様ではない。母の笑顔そのもの。

宇宙の時間抱へて海月の透きとほる

大和市 おおもりじゅん子

水源は山毛櫟の山よりの稲の花

津市 中山 道春

水をまく方へ方へと糸蜻蛉

三原市 天崎 千寿

鬼灯や今は空き家の柱傷

吹田市 成瀬 英夫

トラックの荷台の西瓜畔に買ふ

川口市 清正 風葉

店の棚歪むや尾花沢西瓜

寒河江市 大谷 正行

にはとりの羽ひろげたる暑さかな

神戸市 倉本 勉

正木ゆう子 選

重き日のつづく八月重きまま

【評】 長崎・広島への原爆投下、太平洋戦争の終結、飛行機の墜落。失われた多くの命と、今も世界各地で失われつつある命を思い、心の晴れるいとまも無い八月が過ぎた。

八十路には儚さ八分大花火

【評】 納涼イベントとして華やかな花火。しかしお盆の時期でもあり、年齢を重ねるにつけ、亡き人への鎮魂の思いの方がまさってくるのだ。這ふやうに風が畳を夜の秋

西東京市 永井 康信

【評】 冷気は重く、暖気は軽い。風の通り道をさぐり、姿勢を低くすると、涼しさはどこかに潜んでいるもの。畳に寝そべるとよくわかる。

生身魂読み書き会話怠らず

大阪市 今井 文雄

片陰も昔のままに旧街道

東京都 六笠 有子

場所取りのバイト花火を見ず帰る

四街道市 須崎 輝男

かなかなや催眠術にかかりさう

白井市 昆虫利愛子

をみなには悪友をらす水白玉

栃木県 あらあひとし

悪童を軽くあしらい赤とんぼ

柏市 藤嶋 務

詩の中の町訪るる秋うつら

大阪市 大塚 俊雄

小澤 實 選

割かれてもなほ身を振る蜷かな

【評】 まむしの生命力はものすごい。身を刃物で割かれても、いまだ身をよじるのをやめないというのだ。焼酎に漬け込んでも何ヶ月も動きつづけると、聞いたこともある。

始めるより終わるは難し敗戦忌

【評】 何事も、始めるより終わることのほうが難しい。ことに先の戦争を終えることの難しさについては、今年も新聞記事によく学んだ。

諸焼酎ぐぐいと呟る生身魂

川越市 益子さとし

【評】 生身魂は盆に長寿を祝うべき年上の人。かなり高齢なのに、いける口。この諸焼酎は、湯などで割っていない。生で飲んでるだろう。

抽んづることの寂しさ竹煮草

東京都 望月 清彦

ハンチング少し斜めにサンケラス

池田市 後藤 和豊

老僧に老妓の侍る月見船

名古屋 可知 豊親

マインド・コントロール解けし少年敗戦忌

八王子市 徳永 松雄

苦悶とも歓喜とも見ゆ鮑焼く

横浜市 我妻 幸男

ボンネットにひつくり返る蟬哀れ

川崎市 松浦 恵子

ごみ処理施設の中に浴場夏タベ

小諸市 藤 雪陽

森の墓地

短歌あれこれ 永井 祐 (歌人)

六月にスウェーデンに旅行してきた。ちょうど夏至祭の時期で、ストックホルム市街を歩いていると映画「ミッドサマー」に出てくるような白い服と花飾りをつけた人々を見かけた。七日間ほど滞在した毎日が白夜だったから、帰ってからしばらく暗い夜がこわかった。

訪れた場所でもっとも印象的だったのは、ゲンナール・アスブルンドという建築家が手がけた「森の墓地」だ。見晴らしのいい広い公園のような場所、背の高い樹々の木もれ日の中に小さな墓石が草の上に生えるように置かれている。敷地の各所にはシンプルなお造形の礼拝堂があり、外に大きな十字架が一つ立っている。

人の見ていないところで十字架をなでて写真をとって帰った日本に帰ってからこんな歌ができた。歌会に出すと、「信仰心がなくて伝わってくる」「ビリーケンさんみたい」という感想をもらった。



題字デザイン・イラスト 福田美蘭